

楽しゅう飲みん茶い

2022年3月25日
広島大学大学院
人間社会科学研究科
人文学プログラム

伊藤奈保子

江戸時代の献上茶復活を核にした中山間地域の再生



三原市黒谷地区＋広島の工芸職人＋専門職＋広大生の試み

黒谷地区 （三原市大和町下草井）

標高 3 2 0 ～ 3 6 0 M 人口100名 35戸

- ・江戸時代 **浅野家への献上茶を復活**
- ・お茶を楽しむ空間作り → **広島の工芸** で演出

「楽しゅう飲みん茶い」

2019年度 黒谷茶るま（茶入れ） 鳥生悦郎氏

2020年度 宮島細工轆轤象嵌豆だるま盆 中島茂氏

2021年度 宮島焼三窯元の湯呑セット

包み布 尾道帆布立花テキスタイル研究所

2020・2021年度 テーブルコーディネーター 菅生美希氏

手もみ煎茶作り



鳥生悦郎氏



貯金箱

備後絣きんちゃく

2019「黒谷茶るま」

温めた台の上で茶葉をもみ、水分を取る学生たち



下草井 再び茶葉産地に

大和町 広島大生が住民支援

広島大(東広島市)の学生たちが、かつて広島藩に献上していた茶の再生産に取り組む三原市大和町下草井の住民グループを支援している。24日、現地で昔ながらの煎茶作りに取り組んだ。学生15人は和紙を張った台の上に約6キの茶葉を広げ、火で温めながら乾かした。住民グループ「まほろばくろたに」のメンバーや京都の茶の専門家から指導を受けながら茶葉をもみ込み、約1・2キの煎茶に仕上げた。文学部2年高田雛乃さん(20)は「簡単そうに見えて奥が深い。大和の茶

が広まるようPRしたいと話していた。

下草井の茶は、江戸期広島藩の献上品に選ばれ記録が残る。茶作りは160年代に廃れ、住民グループが2015年に復活させた。同大が今年始めた域活性化事業の一環で、来月5月、三原だるまを器にして煎茶を町内で販する計画。

住民グループの和気泰事務局長(73)は「若い人アイデアも借りながら、歴史ある茶を地域おこしの爆剤に育てたい」と力をめた。

(政綱直規

手もみ茶葉復活(中国新聞)
広島県庁東館1階展示
(2020年11月~2021年3月)



2020

豆だるま盆





菅生「美器」工房会議（田口）
菅生美希先生
2018年度テーブルウェア・フェスティバル最高
位



広島大学：ミライ・クリエ
・黒谷茶るま
・宮島細工轆轤木象嵌 豆だるま盆



2021年度

茶畑整備・肥料やり・茶摘み

宮島焼 湯呑セット制作

- ・川原巖栄堂
- ・川原圭斎窯
- ・対巖堂

茶葉染 包み袋

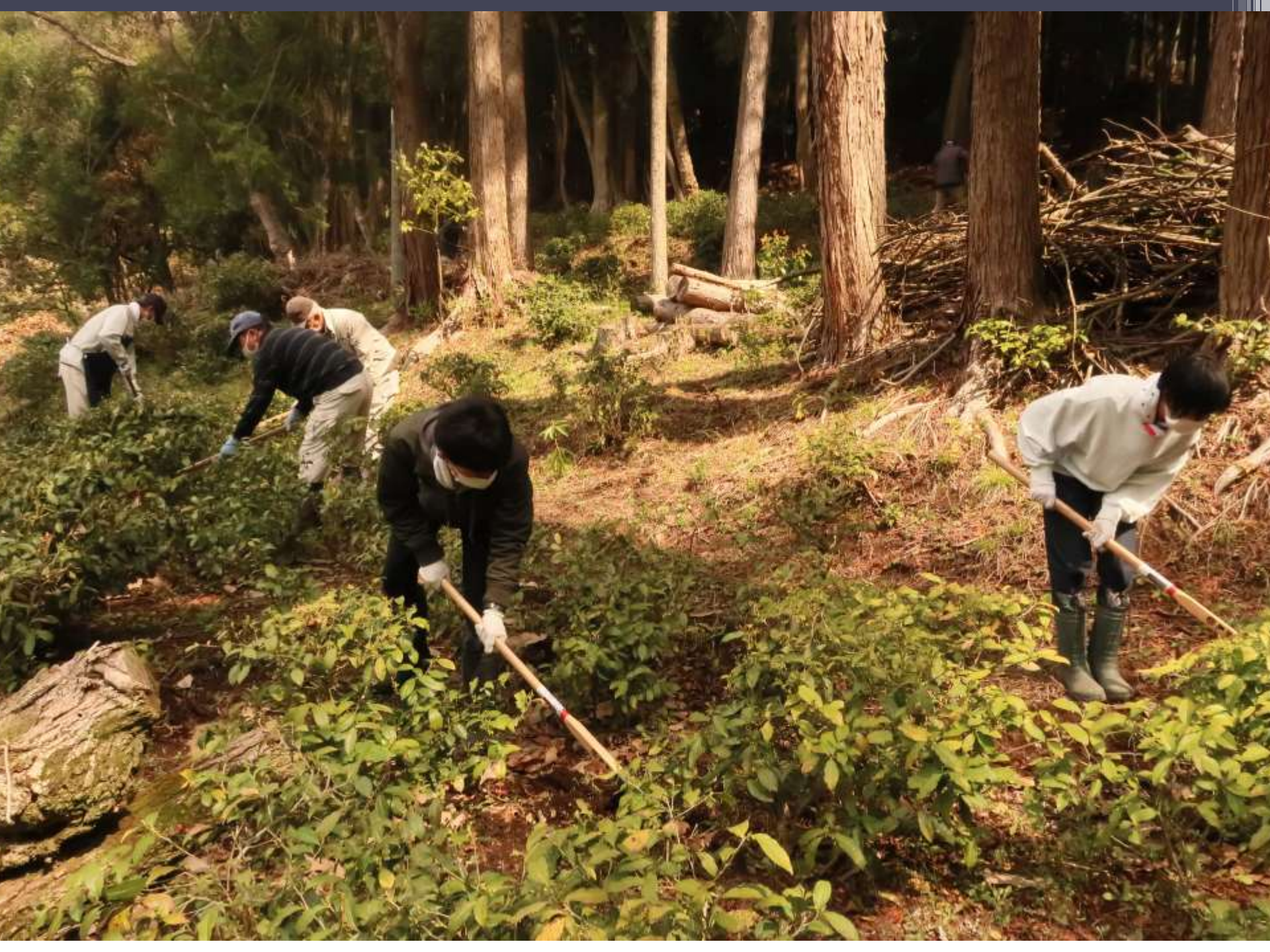
- ・尾道帆布・立花テキスタイル研究所

茶畑 肥料やり 2021年度



茶畑 整備









茶摘み 一芯二葉













手もみ煎茶制作





①露きり ②横まぐり ③玉とき ④中上げ ⑤揉みきり
⑥でんぐり ⑦板ずり ⑧乾燥 (約5時間)



湯呑・スカーフ制作

宮島焼

- ・ 川原巖栄堂
- ・ 川原圭斎窯
- ・ 対巖堂

尾道帆布

- ・ 立花テキスタイル研究所
- ・ 茶葉染スカーフ制作

広島大学 ハイブリット検討会



川原嚴堂堂

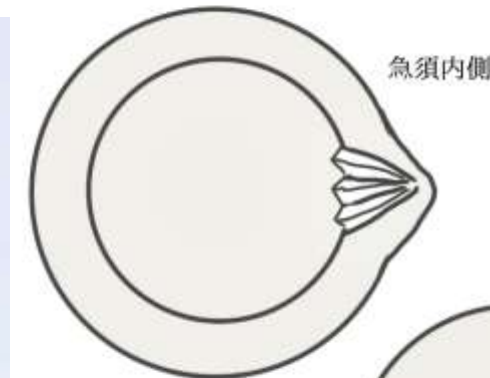


デザイン画

コンセプト

急須の中に湯呑
を入れる

コンパクトにまとまる



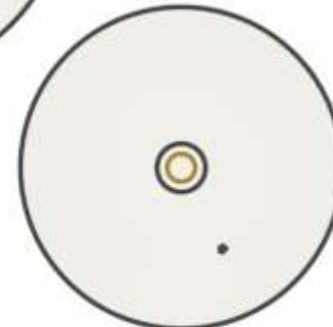
湯呑み 俯瞰



湯呑み 底



急須 蓋



急須 底



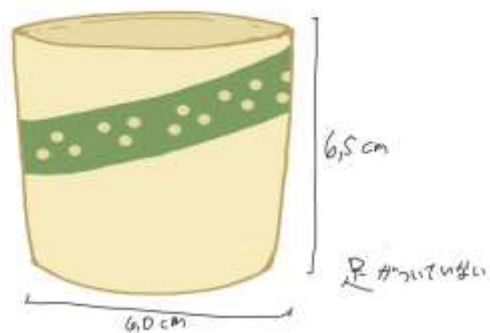


川原圭斎窯





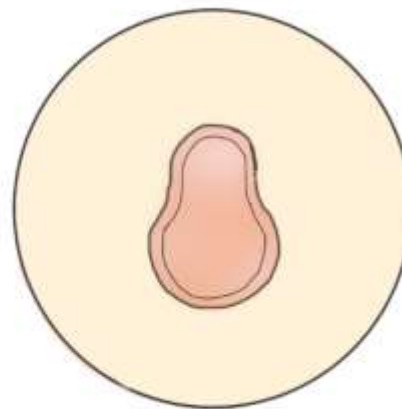
コンセプト お盆とおそろい（豆しぼり文様）



デザイン画

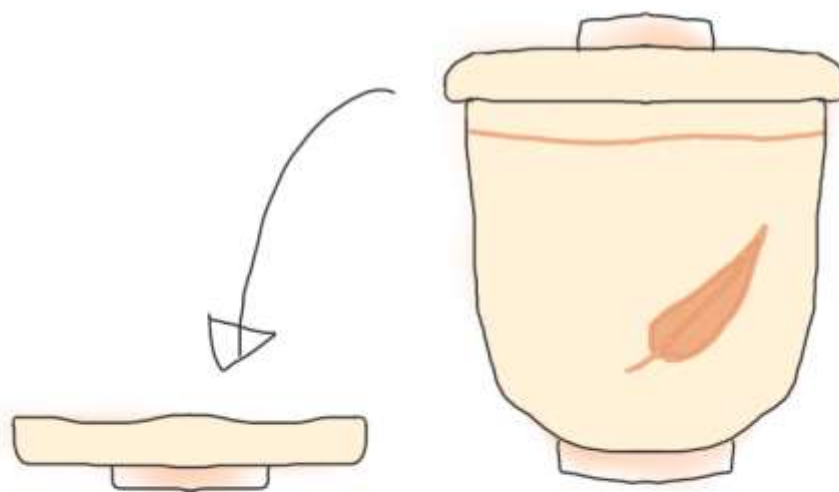
コンセプト
手もみ独特の
茶葉を
鑑賞できる湯呑

→茶こし付き



蓋付き湯呑み

○蓋のつまみ部分を大きくし、逆さにしたときに足として機能するようにする。
つまみ部分はだるま型
(↑絵付けをしないと分かりづらいかもしれない?)



○茶葉を貼りつけて模様をつくる



御砂焼 対巖堂



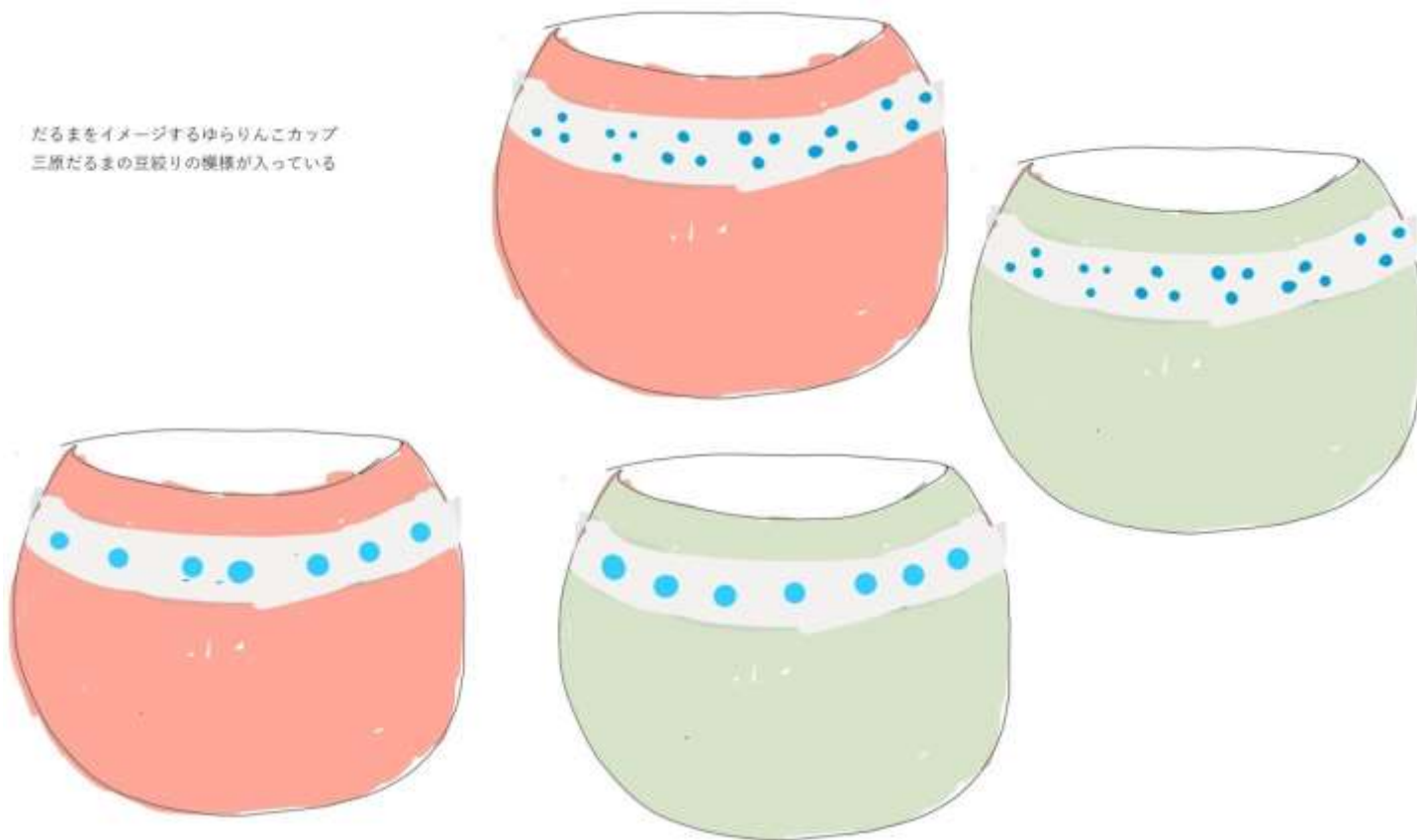
デザイン画

コンセプト

だるまのように
揺れる湯呑

豆しぼり
文様

だるまをイメージするゆらりんにカップ
三原だるまの豆絞りの模様が入っている







尾道帆布：立花テキスタイル研究所

コンセプト

ゴミを出さない
茶器の梱包



茶葉染 シルクスカーフ



アルミ (媒染)



鉄 (媒染)

コンセプト

ゴミを出さない
梱包



ご支援を
有難うございました。

まほろば黒谷・広大有志
(森戸国際高等教育学院)

